

傳築田舎原氏

三十七

特別
A13
4274
37





91-2368



初午の鱸魚鯛炊えんじ節分の赤鯛鮮をゆぎ笑ふ吹草祭やまふ
 身柑子と投る例の絶てるれば蜜柑の我の顔不誇り長草の品
 類の時と節く自然に得る執力以て常の位かたをを思ふ大晦の
 白濁一枚繪草ざじと呼の紙を心も春めく其をりふこそ拙作を見
 近年彫る揃へる葉さく頃から春の新板をくれ又かたをり揚が散
 てもま買出まどさるるま不真もるま長抱語れよの繪草紙かくも時節と
 まむの三月の菰は運賣あふ人更ふる作者も七月毛壇の色揚の請りて
 頼人のるのやうおわりのるる節分の赤鯛齒きまり嘴でも田作よふあよ
 なる廢物とるるべー

柳亭種彦記



松原
けふの
後や
あま
らえ

あまの



冷泉院
足利義植公

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



三十一の巻
此王のまごがまきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと

まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと

まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと



氏中がむろちり
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと

まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと

まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと
まきひのつぎをきこ
あまの光氏をたのむこと

つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...



父...
 る...
 ゐ...
 入...
 へ...
 う...
 くの...
 ふ...
 け...
 の...
 の...
 の...
 の...

つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...

つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...



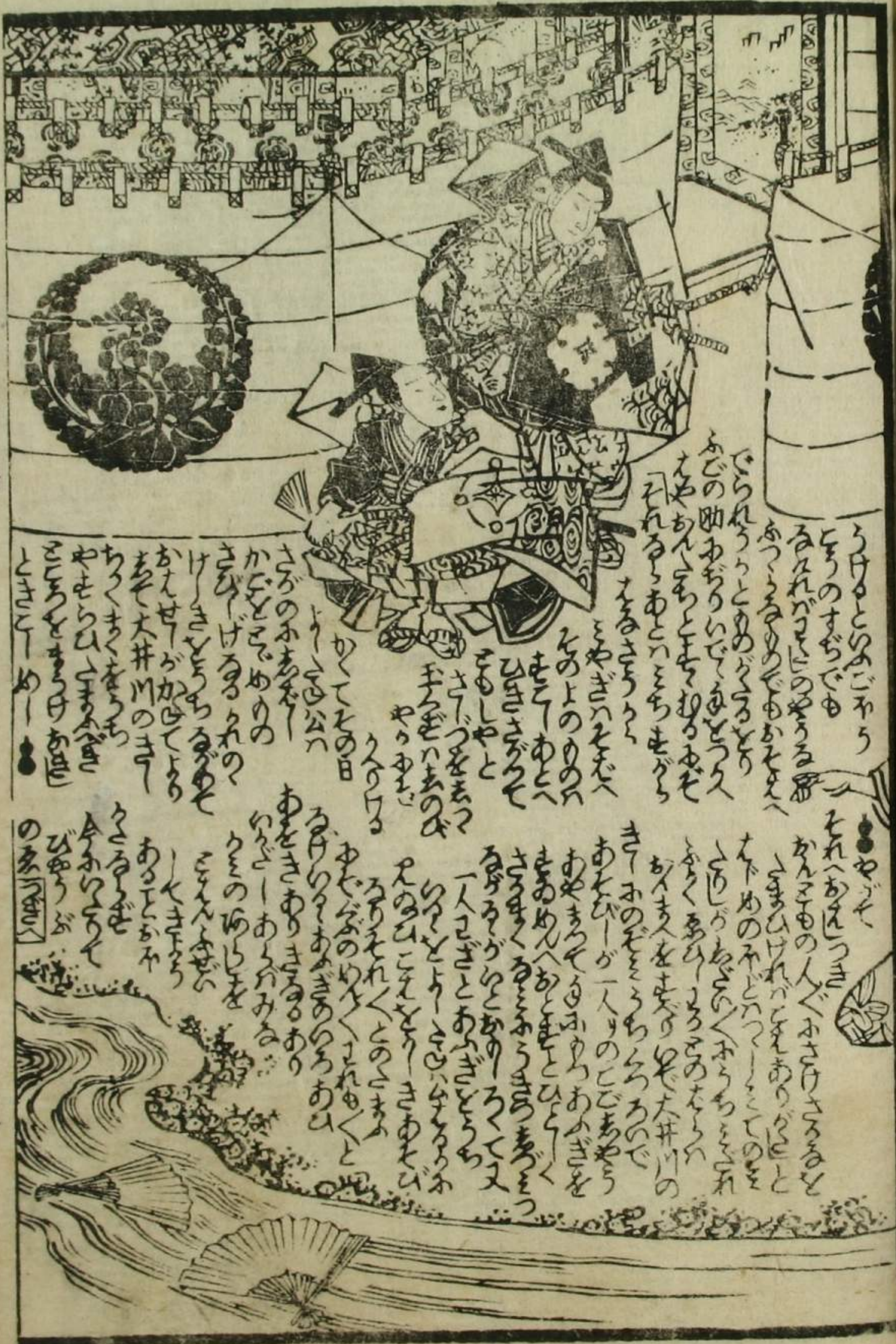
つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...

つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...

つぎのついでに...
 むらがるは...
 てのま...
 けと...
 やり...
 きた...
 まんぢ...
 くれ...
 一字も...
 なる...
 小び...
 不ど...
 たる...
 尺くら...
 かぞ...
 申ひ...
 とあ...
 して...
 さ...
 尺...
 あ...
 ち...
 こ...
 し...



大井川
 扇流
 の事
 府志
 九巻
 見え



大井川の事
 扇流の事
 府志九巻
 見え

大井川の事
 扇流の事
 府志九巻
 見え



「きさぬの
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ

「あまきるう
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ

「あまきるう
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ



「あまきるう
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ

「あまきるう
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ

「あまきるう
ゆかりとふ
ちやあまきるう」
のたのむはこれよりかてし七の
あまらうこあまきるうとの地名
大井川かあまきるうありか
さきん光氏よりさきん光氏
あまらうせらうつらひのめつ
あまらうせらうつらひのめつ

源氏物語

かへりの
あつたき
てふれ
るも
と

あつたき
てふれ
るも
と



あつたき
てふれ
るも
と

あつたき
てふれ
るも
と

あつたき
てふれ
るも
と



あつたき
てふれ
るも
と

源氏物語

僕は

金

金



三十七編下

七世

つかひのちもけさめ
 られてけさめでもあり
 るがびきたんべるとさ
 るまのりてさあちあ
 るまのりてさあちあ
 るまのりてさあちあ
 光氏の目でごめむ
 今ののりてさあち
 さこえてさあちあ



世の人のかたさあち
 れののりてさあち
 れののりてさあち
 れののりてさあち
 れののりてさあち
 れののりてさあち

種彦作
 國貞画

まきの
 よよ
 まま
 こる
 あん
 えさ
 りん
 まさ
 まさ
 下門
 みる



つぎかや
 ともてせま
 るのの
 とちり
 あり
 あり

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

つぎかや
 ともてせま
 るのの
 とちり
 あり
 あり

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく



つぎかや
 ともてせま
 るのの
 とちり
 あり
 あり

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく

あはれこれのこい
 かく入のそんま
 かんとの全このめく



おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ



おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

原丈北に寄



おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ



おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ
おの母も
あつた
いふ

原丈北に寄

さきさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ



日吉かまへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ

おのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ



あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ
あつちさきへおのちのあつちをいひよせ

歌國貞画 柳種彦作

此の歌國貞画は、柳種彦の筆によるもので、二人物が描かれている。左の人物は、袈裟を着た僧侶の姿で、右の人物は、和服を着た女性の姿である。背景には、山や木が描かれている。この画は、歌國貞画の代表作の一つとされている。



信楽現をま
路不尼
深園を見る
まらむりの
間の柱言
卅八編の
と下め不記を
清書
谷
金川
美艶仙女香
黒油美玄香
右の人物は、
左の人物は、
此の人物は、
此の人物は、

自文政十二年己丑 十四箇年繪草紙 至天保十二年壬寅

天保十二年壬寅新春新彫

倭紫田舎源氏

柳亭種彦作 歌川國貞画

三十八編 柳亭去夏より秋にかけて病氣のきつた所漸く不快を氣仕

ひる草稿出来次第右五冊の巻乃遠用板仕の 仙雀堂敬白

初編四冊二編四冊 金澤万八笑増談 五雲亭貞秀画

美艶仙女香 製所 坂本氏 取次 問屋 鶴屋喜右衛門 江戸通油町

